

# 東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

あなたが絶対知るべき唯一のものとは、図書館の場所である。

～ アルベルト・アインシュタイン(物理学者)の言葉です ～

## 1. 女性医師の育成に生涯を捧げた女性・吉岡彌生氏



(掛川市吉岡彌生記念館所蔵)

女性が自由に生き方を選ぶことが困難であった時代に、女子の医学教育を確立し、女性医師の育成に生涯を捧げた方がいらっしゃいました。東京女子医科大学を創立された吉岡彌生氏です。

1871年に現在の静岡県掛川市に生まれた彌生は、活発で正義感が強く、勉強が大好きな女の子でした。漢方医の父の仕事を手伝い、将来は人のために役立ちたいと望んだ彌生は、いつしか父や兄と同じ医師を志すようになります。この少し前、荻野吟子氏が女性医師第一号として誕生していました。しかし、当時は結婚して家庭を守ることが女性の幸せと考えられていたため、父は反対でしたが、彌生は諦めずにひそかに勉強をし、兄の口添えもあって、医学の道へ進むことが許されました。

18歳で上京し、唯一女子を受け入れていた医学校・済生学舎(さいせいがくしゃ)に入学した彌生は、たゆまぬ努力を重ね、入学から3年後には医師免許を取得。日本で27番目の女性医師として認められ、医師免許取得後は郷里で父を手伝いましたが、24歳の時に「医師としてさらに腕を磨きたい」とドイツ留学を目指し、再び上京しました。ドイツ語を学びに通っていた学校で経営者の吉岡荒太氏と出会い結婚。荒太の事業を助けるために医院を開業し、二人三脚で歩み始めたある日、「済生学舎が女子の受け入れを停止する」という知らせが彌生の耳に届きます。「このままでは女性医師の道が閉ざされてしまう…。」危機感を覚えた彌生は後輩たちのために一念発起し、29歳という若さで「東京女医学校」を創立しました。開校当時の生徒は4人、学び舎は自院の一室に机と椅子を並べただけのものでしたが、数年後には売り出されていた洋館(元陸軍獣医学校)に引っ越し、開校8年目には待望の医師が誕生。医師法の改正で医学開業試験の受験資格が「医学専門学校の卒業生であること」と条件づけられた際には、財政的に苦しい中で何とか設備を整え「東京女子医学専門学校」への昇格を実現しました。学校経営も軌道に乗り、専門学校から医科大学への昇格を目指していた矢先、一番の理解者であった夫の荒太がこの世を去ります。さらに関東大震災や第二次世界大戦で学校は大きな被害を受けますが、幾多の困難を乗り越え、1952年にはついに「東京女子医科大学」が誕生しました。男女共学とはせずに女子校にこだわったのは、「女性が安心して学べる環境を守りたい」という彌生の強い思いからだそうです。81歳で学頭に就任した彌生は多くの女性医師を育て、教え子たちに見守られながら88歳で天寿を全うしました。

吉岡彌生氏が生涯を通じて愛した言葉があります。それは「至誠一貫(しせいいつかん)」です。「常に相手の立場に立ち、真心をもって一生を生きること」—この思いは今でも東京女子医科大学に引き継がれ、日本で唯一の女子医科大学として、現在も医療に携わる多くの女性たちを輩出しています。



近代日本を創った7人の女性 (長尾剛著 / PHP研究所)

## ◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆



友人としては、会うごとに忠告をするくらいのもでなければ頼むに足らない。

【『渋沢栄一訓言集』・処事と接物】

「本当のこと」を言ってくれる人は大切な存在です。耳が痛いこともありますが、自分の誤りを正してくれる人々こそ、あなたを幸せへと導いてくれるでしょう。

※格言は『渋沢栄一 明日を生きる100の言葉』 渋澤健・著/日本経済新聞出版社 p.94より転載

## 2. ブドウ畑と美人は手がかかる!?

品質の9割はブドウで決まると言われるワイン。丹精込めてブドウを作る様子が、まるで美人を振り向かせるために尽くしている姿に似ているのでしょうか。フランスでは表題のようなワインにまつわる言葉があるそうです。「ワインベルト」と呼ばれる地域(北緯30~50度、南緯30~50度辺り)はブドウ栽培に適した自然環境で、良質なワインを生み出すことで知られています。特にフランスは世界でも一目置かれるワイン生産国で、2大産地と名高いブルゴーニュとボルドーはそれぞれ「ワインの王」「ワインの女王」と評されています。世界最高級ワイン・ロマネコンティはブルゴーニュのわずか1.8haの畑で生産されるそうで、年間出荷量は6,000本ほどなのだとか。その希少性がわかります。

ワインの起源は諸説ありますが、ワインが登場する最も古い資料に『ギルガメッシュ叙事詩』があります。これは旧約聖書にある「ノアの箱舟」のルーツとしても知られていますが、この叙事詩の中に「大洪水に備えて船を作った人々にワインを振舞う様子」が描かれています。また、古代エジプトのピラミッドには、壁画にブドウ栽培やワイン造りの様子が描かれており、古来よりワインが親しまれていた様子がうかがえます。

「おいしいワイン」とは、価格や知名度ではかれるものでなく、自分自身が美味しいと感じたワインこそ「おいしいワイン」なのだそうです。年齢や経験によって変わるワインの美味しさを、皆さんも楽しんでみませんか。成人年齢は18歳になりましたが、お酒は20歳になってからです。お守りください。



最新ワイン学入門 (山本博監修 / 河出書房新社)

## 3. これが医学論文!? 思わず笑っちゃいます

「ありえない論文たちを一挙公開!」という帯に惹きつけられ、思わず表紙を開いた電子図書『本当にあった医学論文』(中外医学社)。目次を見るや、「これは医学論文!?!」と見紛うほどユニークな論文タイトルが並び、堅苦しい印象のあった論文のイメージがガラリと変わりました。「ココナッツは意外にも頭に落ちてくる」「床に落ちた食べ物は何が安全か?—【5秒ルール】の妥当性」「ストレスの多い男性はふくよかな女性が好き」「看護師が太極拳を習うと仕事の生産性がアップする!?!」—これらは収録されている論文のタイトルの一列です。ちょっと読んでみたくありませんか?

著者の倉原優さんは呼吸器内科のお医者さまで、日頃気になることがあると医学論文を検索されるそうです。時折、面白い論文に遭遇することも多く、これらをたくさんの人々に紹介したいと書籍化を思いついたのだとか。本書は「論文集」ではなく、気軽に読める(読み物)です。研究や文献検索で行き詰ってしまった時、本書を開いてクスッと笑ってみませんか。面白い論文を検索してみるのも楽しいかもしれません。

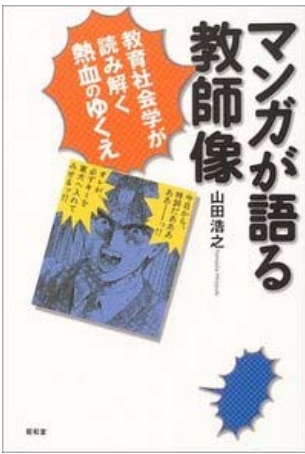
本書は電子図書館「Maruzen eBook Library (MeL)」でご覧いただけます。MeLは大学内外でご利用いただける便利な電子図書館です。ぜひ日々の学習にお役立てください。



本当にあった医学論文 (倉原優著 / 中外医学社)

## 『マンガが語る教師像 ～教育社会学が読み解く熱血のゆくえ～』

管理栄養学部 井 陽介



**マンガが語る教師像**  
教育社会学が読み解く熱血のゆくえ  
(山田浩之著 / 昭和堂)

みなさんは、マンガは好きですか。私は、大学生の頃はよくマンガを読んでいた。昔はマンガを読むことを批判的に言われることもありましたが、今日では世界に誇れるポップカルチャーになりました。

今回私が紹介する図書は、山田浩之著『マンガが語る教師像』(昭和堂)です。本書では、1960年代から2000年代初頭までの教師が主人公(もしくはそれに近い役割も含む)になったマンガ(150を超える作品)を分析対象とし、これまでどのように教師が描かれてきたのかを検証し、そこから生徒のもつ理想的教師像を描き出しています。本書は、「Ⅰ教師像のゆくえ」、「Ⅱ教師の仕事」、「Ⅲ教師のキャリア」「Ⅳ職業としての教師」の4部で構成され、読んだことがないマンガがあっても、著者が分かりやすくマンガの要約を付けているので、スラスラと読み進めることができます。

ここで「Ⅳ職業としての教師」の内容の一部を紹介します。著者は、1960年代から70年代に描かれてきた主人公教師は、柔道の達人やスポーツ万能または高学歴であり、80年代は不良であったことが他の教師からの差別化を図り、主人公教師に魅力を持たせていたといえます。しかし、90年代以降のマンガに描かれる主人公教師には、「裏の顔」(例えば、『ごくせん』でいうと裏の顔はヤクザの組長の孫娘)を持つ教師が多く描かれるようになっていきます。その理由について著者は、「教師が教師のままでは、十分に魅力的にはなくなってしまう」ことを挙げています。つまり、教師の権威が低下したことを指摘しています。また、教師の権威が低下した理由を保護者の大学進学率が高くなったこと、マスメディアの発達で教員の不祥事が大きく報道されるようになったこと等を文献を引用しながら丁寧に説明を加えています。最後の章では、「教師が熱血になるのではなく、生徒を熱血にさせる。そしてどこからか分からないが、いつも生徒を見守っていてくれる教師の姿が求められている」と述べています。

本書は2004年に刊行されていますので、当時と比べて教師の置かれている状況も大きく変わりました。近年、教職の魅力は低下していることが指摘され、小学校等の教員採用試験の倍率は低下してきています。このような時代に、マンガの中でどのように教師は描かれているのでしょうか。現代の子供たちにとって、理想の教師とはどのようなものなのでしょうか。それは本書で述べられている教師像かもしれないし、新たな教師像かもしれません。本書を通して、「理想の教師とは?」「そもそも教師とは?」を考えさせられる一冊です。

### 那珂川町馬頭広重美術館



ゆったりとした切妻の大屋根をもつ平屋建ての那珂川町馬頭広重美術館(栃木県那須郡那珂川町)。自然と調和しつつ、その圧巻とした佇まいは、世界的建築家・隈研吾氏の設計によるものです。開館は2000年11月。栃木県さくら市出身の実業家・青木藤作氏が収集した浮世絵を中心とするコレクション約4,200点の寄贈を受け、設立されました。国内外をみても類稀なる充実さをもつ青木コレクションは、浮世絵師・歌川広重の数々の肉筆画のほか、歌川派の浮世絵、最後の浮世絵師・小林清親の版画、洋画家・川村清雄の油絵など多種多彩です。美術館が周囲の景観に溶け込むようにと、石材や杉材は近くの山から運び、壁紙は地元産の和紙を使用しています。美術館全体を覆う八溝杉(やみそすぎ)のルーバーは、広重が描く「雨」をイメージしたそうで、隈氏の手腕が冴える浮世絵美術館らしい演出に心が躍ります。シックで洗練された外観はCMのロケ地にも使われ、多くの人々を魅了しています。

那珂川町馬頭広重美術館では9月16日(金)～11月27日(日)にかけて特別展「The Kabuki-za」を開催中です。本展では役者を描いた浮世絵とともに、舞台上で実際に使用されている衣装や歌舞伎座が所蔵する日本画などを展示しています。歌川広重を堪能し、歌舞伎座ワールドに魅了され、隈研吾氏の建築に癒される…そんな至福のひとつを過ごしてみませんか。芸術の秋にぴったりの美術館めぐり。美術館にはレストランも併設され、地元のそば粉を使った本格的なお蕎麦をいただくことができるそうです。美術鑑賞の後にゆっくり舌鼓を打つのも、また乙かもしれませんね。

写真(上): 那珂川町馬頭広重美術館 外観 写真(下): 「道成寺」岡田三郎助(株式会社歌舞伎座蔵) 写真提供: 那珂川町馬頭広重美術館(画像の転載ならびにコピー禁止) 展覧会場: 那珂川町馬頭広重美術館(〒324-0613 栃木県那須郡那珂川町馬頭 116-9) 会期: 2022年9月16日(金)～11月27日(日) 開館時間: 午前9時30分より午後5時まで(但し入館は4時30分まで) 休館日: 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日 入館料: 企画展 一般: 500円 / 大高生: 300円 特別展 一般: 700円 / 大高生: 400円 ※中学生以下の方は無料 ※障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名は半額 那珂川町馬頭広重美術館HP: <http://www.hiroshigebato.tochigi.jp/> ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、状況に応じてイベント等の予定を変更する場合がございます。最新の情報はHPをご覧ください。 ※混雑時には入館を制限する場合がございます。ご協力をお願いします。



### ◇ 布袋葵 (ホテイアオイ) ◇



@2022 Kaori Nagatsuka

夏～秋にかけて薄紫色の美しい花を咲かせる水辺の植物です。葉のつけ根のふくらみが七福神の布袋様のお腹に似ていること、また葉が葵に似ていることから「ホテイアオイ」という名が付けました。水面に浮かぶその姿から「揺れる心」という花言葉をもちます。メダカ等の水槽に浮かべて水草としても楽しむことができるそうです。

### ◆ 図書館からのお知らせ ◆

図書館運営委員会では、3年ぶりの学生選書ツアー開催に向けて準備を進めてまいりましたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、残念ながら本年度もツアーの開催を見送らせていただくこととなりました。大きな本屋さんで実際に本を手に取りながら、1冊1冊選書していく楽しさをぜひ皆さんに味わっていただきたかったのですが…残念です。これまでの学生選書ツアーでは、図書館に置く本を学生の皆さんに選書していただいたほか、選書した本を紹介し合ったり、POPを作成して書店に展示していただいたりと様々な企画を催してまいりました。学生選書ツアーには、たくさんの「楽しさ」と「ワクワク」が詰まっています。来年こそはコロナ禍が落ち着き、ツアー再開が叶うことを願うばかりです。

